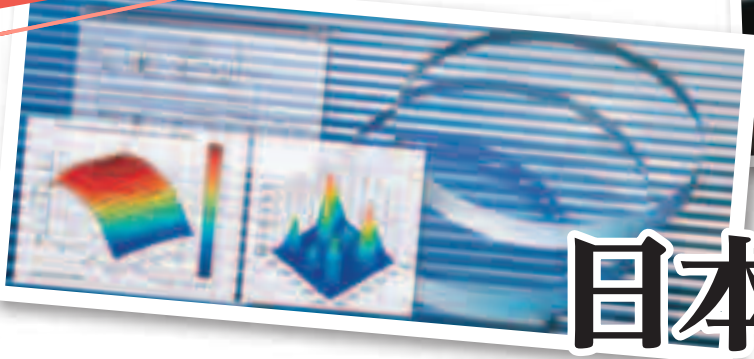


インテグレーションテクノロジー株式会社

大手自動車メーカー、シンクタンクでの技術、経営力両方の経験を活かしたスピンアウト企業。理研の先端技術を活用してシミュレーション分野において創業2年で急成長する理研ベンチャー「インテグレーションテクノロジー株式会社」について、代表取締役の船田 浩良氏にお話を伺いました。



最先 日本のものづくり

会社のおいたち、なぜ入居したのか

最先端の理研シーズを活用して ものづくりの未来を変える

シミュレーションの分野で起業された経緯を教えてください。

私は大学卒業後、大手自動車メーカーに勤め金型設計等に携わり、コンピュータシミュレーションは将来的にも可能性が大きい技術だと感じていました。その後、シンクタンクに入社し営業からプロジェクト企画も含めて様々な経験を積みましたが、これが現在の中小企業の経営者的な立ち回りにも似ており、現在の経営の糧になっていると感じます。

2008年のリーマンショック前後でシミュレーションの世界は大きく環境が変化しました。各社がワールドワイドな市場の中で、生き残りをかけて差別化・効率化を進める過程で、社内完結型ではなく社外のリソースを活用する方向になってきました。私は、これからはベンチャーらしさを生かし顧客のニーズを分析し、必要な要素技術をインテグレーションして顧客に提供することが必要だと考え起業しました。

どのような経緯で和光理研インキュベーションプラザに入居されたのでしょうか。

当社のようなベンチャー企業が早期に大手企業や研究機関

と取引をするには、技術的な確証のある”理研ベンチャーとして認定を受けること”と、公的施設への審査を通過したという”和光理研インキュベーションプラザに入居すること”の2点が絶対に必要だと考えました。2011年7月に会社設立、同8月に理研ベンチャーの認定を受け、その10月にインキュベータへの入居を果たしました。

入居——その後の成長、展開

会社としてやっていけるという実感できた 2年目

創業後の立ち上げが早く急成長されているとうかがっています。

会社を設立して最初の6ヶ月は売上高がゼロで資本金を食いつぶす状況でした。入居と同時に社員3名体制で少しずつ会社の備品を整えながら仕事を始め、受注が取れるようになりましたが1年目は赤字でした。2年目の12月、東京海洋大学と連携し提案したJSTのA-STEPに採択された頃、今まで提案していた案件が実り、研究機関や自動車メーカーから受注をいただけるようになりました。やっと会社としてやっていけると感じることができ、自分の親に独立したことを話したのは、このころだったと思います。

製品紹介

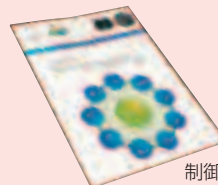
製造業の顧客へのシミュレーションを中心とする種々のサービスを提供。理化学研究所で開発したVCADをベースとした光学関連ソフトウェア、電気自動車等に利用される制御およびモデルシミュレーションツールを用いた開発など、VCADと制御系の両方の技術要素を統合したシミュレーションの提供を行っている。



ECU(エレクトリックコントロールユニット)70個以上搭載

モデルベース開発

制御システムを図式で表現したモデルで定義してシミュレーションで動作をテストし、そのまま製品に実装するようにした開発プロセスを提供。制御塾を開催し、シミュレーション技術を活用する人材育成にも力を入れている。



制御塾のテキスト

会社概要

入居BI 和光理研インキュベーションプラザ
代表取締役 社長：船田 浩良
所在地 埼玉県和光市南2-3-13
和光理研インキュベーションプラザ 105号
事業概要 シミュレーション技術に基づく製造業への
統合的なサービス提供
U R L <http://www.int-tech.co.jp/>



船田 浩良 社長

- 2011年 7月 ● 会社設立
- 8月 ● 理研ベンチャー認定
- 10月 ● 和光理研インキュベーションプラザに入居
- 2012年 11月 ● 彩の国ベンチャーマーケット出展
- 12月 ● JSTのA-STEP採択
- 2013年 8月 ● 横浜支店開設
- 9月 ● 増資
- 9月 ● 協創フォーラムに参加
- 11月 ● 彩の国ベンチャーマーケット出展

端のシミュレーション技術で をリードする理研ベンチャー

普及が著しい電気自動車やハイブリッド自動車をはじめ最近の自動車は、細かい制御や複雑な制御をおこなうコンピュータ制御の塊のようなものです。シミュレーション技術の必要性が高まる中で、CAD/CAM/CAEの技術と制御の両方に強い会社は少なく、両方の新しい技術をキャッチアップしてインテグレート(複合)できることが当社の強みであると考えています。自動車関連のニーズの高まりと当社の強みが重なり、2年目は初年度の5倍の売上を達成し黒字化しました。現在は従業員9名体制で事業運営しています。

和光理研インキュベーションプラザに入居して 良かったことは何でしょう？

今までに彩の国ベンチャーマーケット(展示交流会)に2回出させていただきましたが、いずれも引き合いがありました。その他、インキュベーションマネージャー(IM)から販路に繋がるプレゼン等の機会や情報の提供や、助成金申請時には事業計画のブラッシュアップも支援していただきました。IM室や和光市商工会の方々にはいつも大変お世話になっています。また、同じ施設に入居している株式会社先端力学シミュレーション研究所、株式会社トライアルパークは当社の株主でもありますし、事業推進上もお互いに強みを生かして連携しています。



H25.11、彩の国ベンチャーマーケットでのプレゼンの様子

そして、これから…/今後の課題

業界でデファクトスタンダードを目指す

御社の今後の展望をお聞かせください。

電気自動車等の制御関連で特に必要とされる「モデルベ

ス開発」は、制御システムを図式で表現した「モデル」をベースにシミュレーションで動作テストし、製品開発を行うプロセスですが、これはものづくり全てに影響のあるイノベーションだと思います。自動車に限らず船舶や医療分野、農業分野にも活用できる技術だと考えます。当社は、現在は請負開発が中心ですがモデルベース開発に関連したモデルライブラリで自社製品を複数商品化していく計画です。モデルベース開発は発展途上の分野でもあるので、先行参入の優位性を基に、この分野のデファクトスタンダードとなるよう情報発信にも力を入れていきます。

BI 紹介

和光理研インキュベーションプラザ

当施設は埼玉県、和光市、理研、中小機構と連携で運営されています。特に理研との関係が深いことが特長です。地理的に理研の敷地内にあり、全入居企業の80%が理研発であったり理研と共同研究・開発を行っています。入居企業には常駐するIMが販路開拓や企業連携等を支援しています。

〒351-0104
埼玉県和光市南2-3-13
Tel.048-450-2041
Fax.048-450-2051



和光理研
インキュベーションプラザ
チーフIM 溝渕 重幸



当社は非常に成長が早く、将来有望な企業です。今回は事業拡大に伴う資金需要へのご希望から埼玉県のイベントに参加していただき金融機関からの融資を得ています。今後も事業展開に資する支援をさせていただきます。